「CS」は、コミュニティ・スクールの略称です。

若基小CSだより

第4号
令和7年3月10日

◆◆第４回学校運営協議会を開催しました◆◆

３月５日（火）に第４回目の学校運営協議会を行いました。今回は、学校評価、令和７年度の学校運営方針などについて協議しました。

【学校評価について】

年度当初に成果指標（数値目標）を立てて１年間取り組んできた６つの項目（学力の向上、心の教育、健康・体つくり、働き方改革の推進、特別支援教育、郷土愛）がどうだったかについて、学校運営協議会委員の皆様にご意見をいただきました。

評価項目	意見
進んであいさつができる児童の育成（心の教育） 	・児童アンケート結果が 88%であり、成果指標「自分からあいさつができたと答える児童 90%以上」より下回っていた。しかし、88%という結果は高い数値であるためC評価（やや不十分）ではなくB評価（おおむね達成）でよいと思う。 ・自分から、大きな声で、相手の目を見てあいさつをしている児童を「あいさつ名人」として校内放送で紹介している。そのことが、励みになっている。 ・内向的な児童は、心の中であいさつをしたり、小さな声で言ったりしていると思う。それも「できた」と捉えてよいと思う。 ・登下校中の様子を見ていると、下学年はよくあいさつをしている。１年生の中には「いつもお疲れ様です」と感謝を伝える児童もいた。高学年は恥ずかしいためか、あいさつを返さない児童もいる。 ・家庭で「いってきます」、「ただいま」などのあいさつをきちんと言うことで、地域の中でもあいさつができるようになってくる。
ふるさとを愛する児童の育成（郷土愛） 	・基山町で生まれ育った児童にとってはあたり前のことで、よさと認識することが難しい児童もいる。教師が基山町のよさをアピールしたり、基山町のよさに気付く場を設けたりする必要がある。２年生の町探検や３年生の社会科の地域学習は体験を通して基山町のよさを感じることができる学習機会となっている。 ・今年度の３年生は、産業振興課と連携することで、多くの場所に見学に行くことができた。来年度も継続するとよいと思う。 ・基山町のよさを広げていく取組をしてはどうか。 〔例〕・児童に基山町のすきな場所や物などを聞き、基山町の地図にまとめる。 ・全校で基山カルタ大会を行う。 ・来年度は「基山町のよいと思うところやすきなところを言える」という質問項目にすると児童は答えやすいと思う。 ・基山町のよいところには、場所だけではなく、歴史、自然、伝統芸能なども含まれる。昔と今を比較することで、新たなよさに気付くこともできる。

【令和７度の学校教育目標について】

令和７年度は、自分の思いをしっかりと持ちながら友達と共に活動できる活力ある児童の育成を目指していきたいと考えています。お互いを尊重し、友達と一緒に様々なことに取り組むことで、さらに成長したり、新しいことを生み出したりしていってほしいと願っています。児童一人一人の思いに寄り添い、支えることができる学校となるよう努めていきたいと思います。

学校運営協議会委員の皆様、地域住民の皆様には、登下校の見守りや学習支援ボランティアなど、１年間ご支援にいただき心より感謝申し上げます。皆様の温かい言葉掛けや眼差しのおかげで、若基小学校の子供たちはいつも優しく穏やかな表情で学校生活を送ることができています。本当にありがとうございました。

これからも、子供たちが笑顔で過ごせるような地域と共にある学校を目指して、教育活動を充実していきたいと思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。